

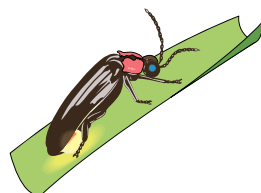
コウノトリの郷公園附属飼育施設コウノトリ保護増殖センターにおいて、5月26日にJ021（生年不明、オス）が死亡しているのを確認しました。

J021は昭和46年に購入したコウノトリで、豊岡で飼育されて約36年になります。保護・増殖事業がなかなか上手く進まなかった頃にペアリングに成功するなど、事業の進展を支えてくれたコウノトリです。

死亡原因は不明ですが、外傷などは見られませんでした。

特別観察会 ホタルの夕べ ホタルが現れるのはどんなところかな？コウノトリの郷公園でホタルを観察してみよう。

日 程： 平成19年6月15日（金）19：30～21：00
 対 象 者： 小学校～一般
 （小学生以下は保護者同伴が望ましい。また、中学生以下のコウノトリの郷公園までの交通手段については、保護者で対応願います。）
 定 員： 30名
 内 容： お話「ホタルの生活」、観察
 応 募 締 切： 平成19年6月13日（水）ただし、定員になり次第締め切ります
 保 険 料： 18円
 申 込 方 法： 次の～を明記したハガキ・FAX・E-mailのいずれかでお申し込みください。
 郵便番号・住所 氏名（ふりがな） 生年月日
 電話番号 「ホタルの夕べ」への参加を希望



飼育コウノトリの繁殖状況（2007.05.31現在）

親鳥	卵の数(個)				育雛状況(羽)		備考
	巣の中	孵卵器	無精卵	中止卵	破卵	計	
Lペア センター				1		1	ヒナの親鳥はWペア
Wペア センター				1		1	
AEペア センター			1		1	2	
計			1	1	1	3	

コウノトリの郷公園附属飼育施設コウノトリ保護増殖センターで、5月31日にヒナが2羽孵化しました。親鳥のWペアには、このうちの1羽を育てさせます。もう1羽のヒナは、子育ての上手なLペアに孵化する前から托卵（注1）しており、このままLペアに育てさせます。

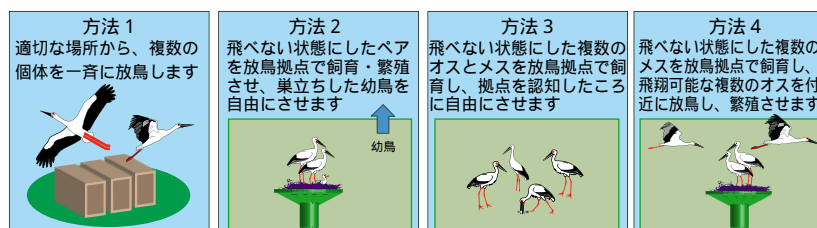
注1：他のペアが産んだ卵を托し、抱卵させること

コウノトリの羽数（2007.5.31現在）

飼育コウノトリの羽数

	オス	メス	不明注2	合計
コウノトリの郷公園	30	37		67
コウノトリ保護増殖センター	19	20	2	41
合計	49	57	2	108

注2：ヒナのため性別不明



野生下のコウノトリの羽数

実施年度	放鳥方法	放鳥実績/野外での繁殖				回収/収容		死亡		備考	野外現存数
		放鳥・着手・巣立ち・孵化日	オス	メス	不明	合計	オス	メス	オス		
平成17年	方法1	平成17年9月24日放鳥	2	3		5	1		1	J0290一時収容中、J0232死亡	3
	方法4	平成17年9月30日着手		2		2		2		ペア不成立のため回収	
平成17-18年度	方法2	(親鳥)平成17年9月30日着手	1	1		2	1	1		試験終了のため回収	
		(幼鳥)平成18年7月14日、21日巣立ち	1	1		2					2
平成18年度	方法1	平成18年9月23日放鳥	1	2		3					3
	方法3	平成18年6月25日着手(9月24日解放)	2	2		4					4
平成19年度		平成19年5月19日野外での繁殖により孵化			1	1					1
合計			7	11	1	19	2	3	1		13

待望のヒナ誕生

野外での定着に向けての新たな一歩についてお知らせします。

野外でのヒナ誕生

放鳥コウノトリJ0228（メス）とJ0275（オス）のペアが繁殖行動をしている豊岡市百合地地区の人工巣塔で、ヒナが孵化しているのを、5月20日に確認しました。野外でのヒナの誕生は、福井県小浜市で昭和39年に確認されていらい、43年ぶりの出来事です。

このコウノトリのペアの巣では、3個の卵を確認していましたが、1卵目は孵化したのですが、残念なことに2つ目の卵は、22日の朝、巣の外に出されており、その後、親鳥によって巣の下に落とされてしまいました。その卵を確認したところ、孵化直前で成長の止まった卵だったことが分かりました。

3つ目の卵は、5月23日に孵化したのですが、ヒナが孵化した後に死んでしまったため、親鳥が巣の外に捨ててしまいました。ヒナが死んだ理由については、はっきりとしたことは分かりません。

巣の中に残った1羽のヒナには、親鳥が交代で餌や水を運び育てています。ヒナが小さいうちは、カラスなどが襲うこともありますし、また、羽毛がまだ完全に生えていないヒナの体温が下がらないように、一方の親がずっと巣の中に座ってヒナを守っています（写真1）。このヒナが無事に巣立ちするまで、まだまだ親鳥の大変な時期は続きます。



写真1 親鳥の羽の下から顔をのぞかすヒナ

なぜ、43年前にヒナの誕生が途絶えてしまったのでしょうか？

日本では、野外でのヒナの誕生が途絶えてから7年後に、最後の野生のコウノトリが姿を消しました。子孫が増えなければ当然絶滅してしまいます。ではなぜ、コウノトリは43年前にヒナの誕生が途絶えてしまったのでしょうか？

大きな理由の一つは、コウノトリが健康ではなくなっていた、ということです。当時使われていた農薬には、毒性が高く、効果が長く続くものとして「有機水銀」という成分が含まれていました。田んぼで生き残っていた昆虫や魚などの“小さな”生き物の体内にこの「有機水銀」がたまり、それを食べた“少し大きな”昆虫や魚の体内にはもっと「有機水銀」がたまりました。それらの生き物を食べるコウノトリの体の中には、最終的に多くの